

自民党 県会報告 第216号

12月県議会 定例会 会期 12月9日(火)～12月23日(火)

物価高対策に取り組み、県民の安全・安心な生活を守る!

12月定例会は12月9日から12月23日までの15日間の日程で開催され、令和7年度一般会計補正予算や、県政当面の重要な案件について審議し、条例や意見書など88件を可決いたしました。自民党議員会からは代表質問1名、一般質問5名が登壇し、令和8年度の予算編成や県民生活の安全・安心の確保などについていたしました。一般会計補正予算の主な内容については以下の通りです。



▲改修工事を終えた新議場で開催

令和7年度一般会計補正予算 768億5,900万円

- 【主な内容】
- 地域経済の活性化に向けた取組 (10億8,029万円)
 - 地域医療提供体制の充実に向けた取組 (9,230万円)
 - 物価高への対応 (168億6,940万円)
 - 医療や介護、障がい福祉分野の処遇改善に向けた支援 (47億4,629万円)
 - 「クマ被害対策パッケージ」を活用した緊急対応 (1億5,036万円)
 - 交付金事業〈道路〉(62億8,081万円)
 - 交付金事業〈河川〉(50億5,785万円)
 - 農業の競争力強化に向けた基盤整備 (27億312万円)

自民党議員会が提出し可決した意見書

- 私学助成の充実強化等を求める意見書
- 安定的皇位継承の議論促進を求める意見書
- クマ被害防止対策への支援強化を求める意見書
- 国民の健康保持と国民皆保険堅持を求める意見書
- 中小企業・小規模事業者への支援強化を求める意見書
- 復興を支えるインフラの整備促進を求める意見書

議会の構成が変わりました

県議会の改選に伴い、議会の構成が変わりました。11月12日開催の臨時会において、新議長に自民党議員会の矢吹貢一議員、新副議長には同じく自民党議員会の佐藤雅裕議員が選出されました。また、自由民主党福島県議会議員会の会長に渡辺義信議員、副会長に西山尚利議員、幹事長に鈴木智議員、総務会長に先崎温容議員、政務調査会長に佐々木彰議員がそれぞれ就きました。



▲矢吹貢一議長 ▲佐藤雅裕副議長

12月定例会設置の調査特別委員会	
復興・創生推進対策特別委員会	副委員長 鈴木 優樹議員 理事 佐々木恵寿議員
県民の安全・安心対策特別委員会	委員長 山田平四郎議員 副委員長 山内 長議員
人口減少・地域活力創造対策特別委員会	委員長 満山 喜一議員 副委員長 石井 信夫議員

12月定例会では、重要な課題について取り組み、調査特別委員会が設置されました。

新・所属委員会						◎委員長 ○副委員長
常任委員会						議会運営委員会
総務	企画環境	福祉公安	商労文教	農林水産	土木	
◎ 佐藤 郁雄 ○ 佐々木恵寿 西山尚利 先崎温容 佐藤 義憲	◎ 江花 圭司 ○ 石井 信夫 鈴木 智 高宮 光敏	○ 佐藤 徹哉 佐藤 政隆 佐藤 雅裕 水野 透	◎ 渡邊 哲也 ○ 渡辺 康平 長尾トモ子 山田平四郎 金澤 拓哉	◎ 鈴木 優樹 ○ 山内 長 太田 光秋 渡辺 義信 誉田 憲孝	◎ 山口 信雄 ○ 木村 謙一郎 佐藤 憲保 満山 喜一 佐々木 彰	◎ 高宮 光敏 先崎 温容 佐藤 義憲 佐々木 彰 佐藤 徹哉 誉田 憲孝

代表質問 (令和7年12月11日)



自民党議員会を代表して、幹事長の鈴木智議員(いわき市選出)が登壇し、代表質問を行いました。

◎復興への歩みを進める本県の姿を発信するため、復興祈念公園をどのように活用していくのか

A 内堀知事

震災の記憶と教訓を後世に引き継ぐ拠点として「復興祈念公園」を4月25日に開園する。園内には、献花台を備えた国の追悼・祈念施設や交流拠点となる多目的広場が整備される。多くの人に福島への理解を深めてもらい、次世代を担う若者たちが未来へ向けた思いを育む公園になるよう積極的に活用していく。

◎県立学校へのエアコン設置について、どのように取り組んでいくのか

A 教育長

県立学校では全ての普通教室への設置を完了しており、現在は室温調整が必要な教室への設置やPTA等が整備したエアコンの更新を優先して進めている。特別教室や体育館への普及は近年の猛暑下で適切な学習環境の確保はもとより防災機能強化の観点からも重要であることから、着実な整備に向けて検討を進めていく。

◎会津地方を中心に襲った大雪を踏まえ、除排雪体制をどのように強化しているのか

A 土木部長

大雪時に集中的に除排雪を行う路線や新たな雪捨て場等を除雪事業計画に位置付けるとともに、県有機械の貸与手続きの制度化、スクラム除雪の取組などにより、道路管理者間の連携強化を図った。効率的な作業には地域住民の理解が不可欠なので、協力を丁寧に呼びかけて円滑な道路交通の確保に努める。

◎次期ふくしまグリーン復興構想の実現に向け、どのように取り組んでいくのか

A 生活環境部長

これまで施設整備やトレイルルートの設定など、魅力向上や周遊促進に取り組んできた。更なる魅力発信の一環として、令和10年度に本県での「山の日」全国大会開催に向けて立候補する。引き続き市町村等と連携し自然公園等の更なる磨き上げを進めながら、構想の実現に取り組んでいく。

各団体との政策懇談会を実施

自民党議員会は、支援友好団体との政策懇談会を実施しました。各団体の皆様が抱える様々な課題や要望事項を拝聴し、県政に反映するべく活発な意見交換が行われました。これからも各団体皆様のご要望が実現できるよう努力してまいります。福島県宅建政治連盟様との懇談の様子▶



福島県議会議員

渡辺康平

県政レポート

第22号



令和8年 情熱と行動の年

令和8年の幕開けにあたり、皆様が新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年まで、総務委員会副委員長として、総務部、危機管理部、人事委員会などを中心に予算や議案の審議に携わり、委員長を補佐してまいりました。今年は議会では商労文教委員会副委員長、議会広報委員会委員長という役職にて活動します。県民の皆様から寄せられた信頼に応えるべく、一層努力してまいります。

さて、昨年は高市早苗氏が総理大臣として就任されて以降、日本の政治状況は大きく変わりました。内閣支持率は10代から20代の若年層と30代から50代の現役世代の支持率は85%と極めて高く推移しています。経済政策として責任ある積極財政を掲げる高市政権は12月に総合経済対策をまとめ、いわゆるガソリンの暫定税率の廃止に舵を切りました。また、地方自治体が地域のニーズに応じたきめ細かい物価高対策として「重点支援地方交付金」を2兆円に拡充しました。これらの経済対策が地元経済に効果を発揮できるよう私も国・県・市町村のパイプ役として尽力してまいります。

最後に、本年の丙午です。午年生まれの政治家には田中角栄、中曽根康弘、小泉純一郎、安倍晋三と大物政治家が勢ぞろい。特に丙午は太陽のように生命力があふれ、情熱や行動力が活発になる年といわれています。本年が須賀川市、鏡石町、天栄村の重要な一年となることを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

渡辺こうへいへの連絡先

連合後援会事務所 〒962-0013 須賀川市岡東町141
TEL 0248-94-5380 FAX 0248-94-5382

12月議会 一般質問に登壇

1 市町村財政について

Q 渡辺

財政状況が厳しい市町村に対し、県としてどのように支援していくのか、知事の考えは。

A 内堀知事

今後は、市町村が希望する状況や見通しを踏まえ、財政計画の策定段階から助言・確認を行う仕組みを構築するとともに、市町村と共に課題を整理し、早期の対応につなげていく考えである。また、財政状況が特に厳しい市町村に対しては、県市町村振興基金の活用や、貸し付けによる支援も含め、実効性のある支援の在り方について検討を進めていく。



▲ 12月16日付 福島民友に掲載

2 除去土壌等について

Q 渡辺

国が決定した「復興再生土」の呼称を使用することについて、県の考えは。

A 生活環境部長

復興再生土の呼称の使用については、国における取組の一つとして示されているものである。県としては、法律で定義された除去土壌の名称を基本としながら、状況に応じて適時適切な呼称を用い、県民の理解が深まるよう取り組んでいく。



▲ 12月16日付 福島民報に掲載

3 クマ被害対策について

Q 渡辺

警察官によるライフル銃を使用したツキノワグマ駆除について、県警察の考えは。

A 県警本部長

警察官によるライフル銃の使用は、県民の生命及び身体の安全を確保するための重要な手段であると認識している。今後は、猟友会等の協力を得ながら、実践的な訓練を行うとともに、必要な体制の構築を進めていく。

4 訪問看護と医療の連携について

Q 渡辺

訪問看護ステーションと医療機関との連携を、今後どのように支援していくのか、県の考えは。



A 保健福祉部長

県では、医療情報ネットワークの活用促進に取り組むとともに、医療機関への導入支援を行っている。今後は、キビタン健康ネットのさらなる普及を進めるとともに、国が進める全国医療情報プラットフォームの動向も踏まえ、医療情報の連携強化を進めていく。

5 県産米の振興について

Q 渡辺

県は米食味・分析鑑定コンクール国際大会の県内開催に向け、どのように支援していくのか。

A 農林水産部長

米・食味分析鑑定コンクール国際大会は、本県産米のおいしさや魅力を広く発信する絶好の機会である。県では、市町村に対する企画立案の助言や、出品促進に向けた周知を行っている。今後は、土づくりや栽培技術等に関する指導を行い、県産米の品質向上とブランド力の強化に取り組んでいく。



▲ 昨年11月にプレ大会が開催されました。今年はいよいよ須賀川市内で国際大会が開催されます。

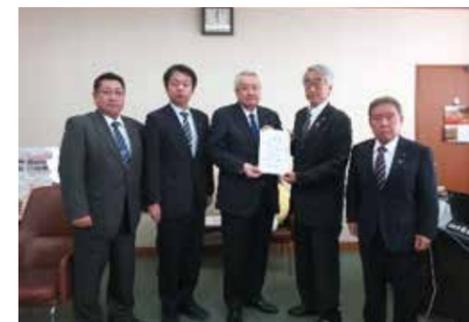
6 国道118号の整備について

Q 渡辺

県は国道118号天栄村八十内地内から鳳坂トンネルまでの整備にどのように取り組むのか。

A 土木部長

これまでに地形条件等を把握するための航空測量や整備が必要な区間の選定を進めてきた。引き続き急カーブの解消に向けて、計画ルートや道路構造の検討など、整備に必要な調査を進めていく。



▲ 11月28日 岩瀬地方市町村議会議長会による県に対する要望活動。国道118号の整備など鈴木副知事に要望書を提出。